

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	宮城児童福祉サービス みんなtoさんぽ エスコート富谷		公表日		2026年 6月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	・スペースは広くはないが、現状の状態を十分に活用し、工夫して活動ができています。	・子どもたちが動き回るには十分なスペースではないが、現状での最良の環境調整を工夫し支援する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	・子ども二人に対し、職員一人以上が支援できるようにしている。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	4		・視覚支援が有効な子どもが多いので、行動の流れを分かりやすく示し、よりよい支援を工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・「身体を動かす部屋」「落ち着いて活動する部屋」に分け、環境調整を図っている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	・状況に応じ、気持ちのリセット、クールダウンができる部屋を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	5		・振り返りが個人に依存している部分があるため、共有できる仕組みを整え、より組織的な改善につなげていけるようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	7		・評価を真摯に受け止め、可能な範囲での業務改善に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	4	・子どもたちへの取り組み事項の共有など、定期的に確認し合いながら全員で取り組んでいる。	・継続した改善につながるよう、記録として残していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	6		・現在第三者による外部評価を行っていないので、今後に向けて検討していく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	4		・定期的な事業所内での研修実施と、個人の外部研修の機会をより受講しやすくする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	4		・年度内に二度の定期的な面談を実施し、保護者様と個別支援計画の確認をしているが、状況に応じ、支援プログラムの変更の際には、随時面談をするよう努める。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	5		・担当相談員の支援計画を基に、子ども、保護者様のニーズに沿った支援計画に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	4		・子ども一人ひとりのモニタリングを全職員で行い、個別支援計画に生かしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	4		・日々の打ち合わせや、定期的職員会議で子どもへの支援方法を確認していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	4		・職員の「モニタリング力」を高め、子ども一人ひとりに寄り添う支援を提供する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	4		・「本人支援」、「家族支援」については個別支援計画により具体的に項目や支援内容を設定しているが、「移行支援」「地域支援・地域連携」については、今後検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	5		・全職員からの意見や内容を生かしながら、チームでの立案を行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	4	・季節やイベントを感じられる活動を工夫し、子どもたちが楽しく取り組むことができるようにしている。	・今後一層工夫された活動プログラムを考えしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	4		・集団での活動が苦手な子どもに対しては、その子に見合った活動内容を工夫し、集団での空間・時間を共有できるように努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	4		・日々の打ち合わせで、活動の内容や支援の方法、役割分担の確認しているが、長期休業中は事前の打ち合わせが十分でないので、工夫する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	5		・事後に全体での打ち合わせを行うことは難しいが、個々の職員での話し合いでの振り返りを、職員全体で生かせるよう努める。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	3	・日々の支援記録を残し、支援の振り返りに活用している。	・全体で振り返り、支援の改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	5		・年二回のモニタリングを定期で行い、計画の見直しに生かしているが、モニタリングの機会を増やし、支援の改善に努める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	5		・常に「4つの基本活動」を意識し、こどもの状態や、気持ちに寄り添いながら工夫し支援を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	3	・できる限り、こどもたちの意思を尊重し、選択できる機会を持つようになっている。	・使用する玩具や活動を自己選択できる機会や時間を設定し、自己決定をする力を育むことができるよう努める。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	3		・通常の担当者会にはこどもの担当者が出席し、資料は児発管が確認する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	5		・こどもが所属する学校との連携は担当者会で連携した支援体制ができつつあるが、地域資源との連携はできていないので、保護者様の承諾を得て、連携を図る必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	3		・全員ではないが、新規利用のこどもについて、児童発達支援事業者の担当、及び保護者様、相談員を交え情報共有している。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	4		・地域の児童発達支援センターと本事業所を共有することもについては、担当者会で支援の方法等を助言していただいている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	6		・機会を設けることで、本事業所利用のこどもたちの理解に繋がったり、友達との関わりにも注目していけるのではないかと考える。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	4		・より多くの職員が参加できるよう配慮する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	4		・職員により伝え方に差があるため、共有内容の統一ができるように努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	4		・定期面談により、それぞれの説明、確認を行っているが、より丁寧に説明する必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	6		・こどもや家族の意向については、相談員からの情報・資料を参考にして現在の現状であり、保護者様を交えての作成を心がける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	3		・年二回の定期的な面談で、支援内容についての確認、同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	2		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	6		・保護者会の開催は不定期であり、こどもたち相互の関わりの様子や、保護者同士の交流は有効であり、定期開催を目指す。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	2		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	・可能な範囲で写真を掲載し、便りやSNSで活動の様子を発信している。	・写真の掲載については、諸事情もあり偏りがちにならざるをえないが、活動の様子を工夫しながら発信する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	5		・SNSや通信で写真掲載等、個人が特定されないよう配慮している。こどもの利用記録簿や各家庭に関する資料等は施錠できる保管棚で管理している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	2		・こどもや保護者様に寄り添う気持ちを常に持ち、意思の疎通や情報伝達に努める。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	6		

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	5	・地震想定、火災想定避難訓練を行っている。	・特に職員の状況判断・行動を重視した、災害や緊急時の避難訓練を行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	5		・BCPは策定している。今後必要な訓練を行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	4		・こどもたちの安全管理に関しては、日常の活動やこどもたちの行動に気を配った支援を行っているが、研修や訓練は不十分であり、定期的に研修会等で安全管理の徹底を図る。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	4		・より多くの保護者様に周知できるよう努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	・定期的に講師を招いて、職員研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	4		・やむを得ない身体拘束については、研修機会を設け、全職員で共有している。